(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3134367号
(U3134367)
(45)発行日　平成19年8月16日(2007.8.16)　(24)登録日　平成19年7月25日(2007.7.25)

(51)Int.Cl.			F I		
B41K	1/00	(2006.01)	B41K	1/00	B
B41K	1/20	(2006.01)	B41K	1/20	
B41K	1/02	(2006.01)	B41K	1/02	R

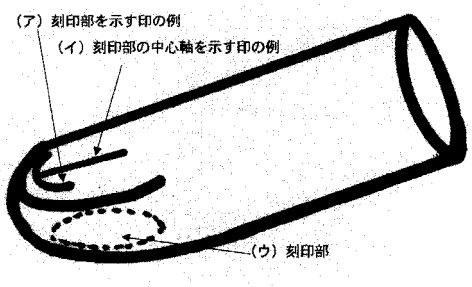
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　書面　(全 4 頁)

(21)出願番号　実願2007-1285(U2007-1285)
(22)出願日　平成19年1月30日(2007.1.30)

(73)実用新案権者　307000651
太田　徹
青森県三戸郡南部町大字杉沢字あけぼの１３番地３４号
(72)考案者　太田　徹
青森県三戸郡南部町大字杉沢字あけぼの１３番地３４号

(54)【考案の名称】指サック形状印鑑

(57)【要約】
【課題】　指定位置に、印字のかすれ、中心軸のぶれなく正確に押印できる携帯用印鑑を実現すると同時に、新しい装身具としての利用可能性ももたせる。
【解決手段】　指サックの先端下部に刻印部を備え、サック上面に刻印部の輪郭や中心軸を示す像を描く。材質は、実用には柔軟素材を使い、装飾用には、貴金属などの高級な材料を用いたり模様や象嵌などの装飾を行なう。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
形状が指の外形をかたどったサック状の印鑑
【請求項２】
指サック表面に、押印位置補正用のしるしをつけた印鑑
【請求項３】
指サック内面に刻印部位置を感触できるしるしをつけた印鑑
【請求項４】
指サックを装飾することで装身具に利用できる印鑑
【考案の詳細な説明】
【発明の詳細な説明】

【技術分野】
【０００１】
押印を正確に行うための指示線をもつ印鑑
【背景技術】
【０００２】
印を正確に押すため、いくつかの補助具がすでに考案されている。方法としては、しるしやへこみなどをつける方法、方向や位置を示す補助具やケースを印鑑本体に付加する方法などがある。押印に指先を使うという意味で本考案に近いものとしては、折畳式印鑑押し具（公開番号；特開２００３－７２２１２（Ｐ２００３－７２２１２Ａ）がある。これは、薄い刻印面をシールに貼りつけ指に巻き付けて押印するものである。あるいは、携帯用印鑑（特許公開２００６－２４８２０７）がある。印鑑であることと装身具であることの両立を可能にした先行の考案はない。
【０００３】
【特許文献１】折畳式印鑑押し具（公開番号；特開２００３－７２２１２（Ｐ２００３－７２２１２Ａ）
【０００４】
【特許文献２】携帯用印鑑（特許公開２００６－２４８２０７）
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
従来の棒状または指輪状印鑑では、印の位置と中心軸を正確に保つのが難しく、また、かすれが発生する可能性がある。補助具をつけた場合、概観や操作が複雑になった。前述の折畳式印鑑押し具は、正確な押印と装着の単純さに難があった。携帯用印鑑は携帯しやすさを目的にしたものであり、指示線等はなく、形状も完全な指サック状とはいえない。指輪型印鑑は、位置決めや押印の力のこめかたのコントロールが正確ではないし、指先につけることを意図して設計されていない。
印鑑は、押印の際に他者の視線が注がれるものであり、かつ、会社等においては頻繁に使われるため、さりげなくステータスを表現する装身具となりうるものである。しかし、指で包み込んで押印するタイプの印鑑では装身具としての美しさを十分引きだすことができなかった。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
印鑑の形状をほぼ指の形にした指サックとし、指サックの指先下部に刻印面を作る。指先上面には、刻印部の形状と中心軸を示す補助線を描き、内面には刻印部位置を触感できる印をつけ、押印位置を判定しやすくする。押印は、指を挿入して行う。すなわち、つぎのような印鑑とする。
（１）　形状が指の外形をかたどったサック状の印鑑
（２）　指サック表面に、押印位置補正用のしるしをつけた印鑑

（３）　指サック内面に刻印部位置を感触できるしるしをつけた印鑑
（４）　指サックを装飾することで装身具に利用できる印鑑

【考案の効果】
【０００７】
本考案により、押印する場所と刻印面を近接させて見ることができ、かつ、指先の繊細な感覚によってすばやく高い精度の位置設定ができる。また、上面のしるしによって位置補正ができる。押印のとき、力を一番こめる場所が捺印面に近いこと、サック全体を利用して力をこめられること、指先の感覚で押印感覚を確かめることができることによりかすれのない押印ができる。さらに、材質を貴金属にして彫金などを施すなどの装飾を加えれば、装身具となる。

【考案を実施するための最良の形態】
【０００８】
このものの構成と使い方を説明する。実用のみを重視する場合には、指サック全体を柔らかいゴムのような材質で作り、それに刻印面を貼り付ける。実用と同時に装身具としての美しさも追求する場合は、サックの材質に高価なものを用いて装飾する。

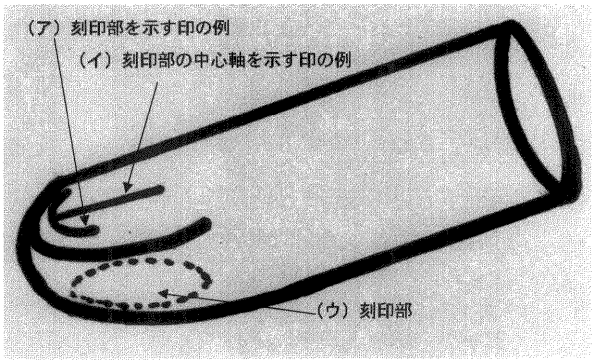
【実施例】

【産業上の利用可能性】

【図面の簡単な説明】
【０００９】
図面１は、指サック形状の印鑑を示した立体透視図である。

【符号の説明】
【００１０】
（ア）　刻印部を示す印の例
（イ）　刻印部の中心軸を示す印の例
（ウ）　刻印部

【図１】



【手続補正書】
【提出日】平成19年5月23日(2007.5.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
形状が指の外形をかたどったサック状の印鑑
【請求項２】
指サック表面に、押印位置補正用のしるしをつけた請求項１に記載の印鑑
【請求項３】
指サック内面に刻印部位置を感触できるしるしをつけた請求項１に記載の印鑑
【請求項４】
指サックを装飾することで装身具に利用できる請求項１に記載の印鑑
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
【図１】指サック形状の印鑑を示した立体透視図である。